

「社会人になつて思うこと」

株式会社ラックス

植 村 陽 平

早いもので私が奈良教育大学を卒業してから半年が経とうとしています。私が現在勤めているラックスという会社は主に書籍販売をしており、CD、ゲームソフトや、レンタル商品も扱っています。今ところ私はレンタル部門に所属しており、売場での接客や売場のレイアウトづくり、商品の発注などの販売業務に携わっています。

求められる販売店の意味

今日、情報産業の発達は著しく、その関連で、インターネットによる商品購入も珍しいことではなく

なりつつあります。コンピュータの端末さえたたけば、自宅にいながらにして欲しいものが手に入るという時代になり、わざわざ店にまで足を運ばずともよいということになります。だからこそ、現在、販売店の意味というものが求められており、それは人ととの関わりに他ならないと考えます。インターネットによる商品購入だけでなく、オートレンタルという、自動販売機のようなものでレンタル商品を扱うものまであり、サービスの機械はとみに進行しています。

そのような時代だからこそ、人が関わり合う場である販売店と、そこ勤める人間のサービスのあり方に対する考え方が重要な要素だと思います。何回でも足を運びたくなるような店づくり、というのが私にとっても目標であり、夢であるのです。



社会人になつて

実際に社会人になつてみて感じたことは、学生時代のアルバイトと違い、指示されることをするのではなく、自分で何をすべきかを考え、自ら動かなくてはいけないという点にあると思います。指示通りに仕事をするのは当然であり、それにプラス何かが必要になつて来るのであります。社会人には、時間を守る等の規則正しさや、協調性も必要だと言いますが、それは人間として当たり前のことで、別段社会人に求められるものではなく、大学の仲間たちとの交流を通じて自然と身につけられるものではないかと思ひます。

社会人として必要なものは、技術的なものを除いては、ほとんど大学時代までに身につくものであると考えますので、その点でも大学生生活の一日一日を大切にすることが重要な意味を持つてく

ると思います。大学時代も学年が上がっていくごとに、一日一日が、時が経ついくのが早いなあ、と感じていましたが、社会人になってからは尚更です。私も社会人としてはまだまだ未熟者なので、一つ一つの時間を大切にしていくと、そういう点にあると思います。指示通りに仕事をするのは当然であり、それにプラス何かが必要になつて来るのです。社会人には、時間の規則正しさや、協調性も必要だと言いますが、それは人間として当たり前のことで、別段社会人に求められるものではなく、大学の仲間たちとの交流を通じて自然と身につけられるものではないかと思ひます。社会人として必要なものは、技術的なものを除いては、ほとんど大学



教師になつて

和歌山県立

和歌山高等学校 教諭

瀧 谷 理 絵



には教育実習をして教員免許をとらなければいけないということ、採用試験に合格しなければならないということぐらいしか知りませんでした。そんな私に採用試験のことや大学のことなどを教えてくれたのが寮の先輩でした。

寮では、寮に入ったからこそ出

会えた、専攻もクラブも違う先輩や後輩、同回生といろいろな話をすることことができました。夜、寮に帰つてくると、自分一人ではなくて、いつも話を聞いてくれる誰かがいました。また、寮行事など楽しいこともたくさんありました。辛い

こともありましたが、運良く高齢生活をとおして多くのことを学びました。

奈良教育大学を卒業して三年が経ちました。その二年間、講師として県立高校に勤務し、この春、高等学校・理科教諭に採用されることがなりました。念願かなつて教諭になることができたのは、充実した大学生活があつたからだと思っています。

大学時代を振り返って

小学生の頃から学校の先生になりたいという思いをもつっていた私は、奈良教育大学に入学した時には、高校の先生になると心に決めていました。しかし、教師になるため

クラブは入学前から決めていた女子サッカー部に所属しました。小学生の頃からサッカーを統けていましたが、真剣な練習の雰囲気に刺激され、もっとうまくなりたいと思い、ほとんど休まず練習に励みました。全日本大学女子サッカーリーグ大会にも出場し、三回生の時

には一戦を突破しました。クラブ活動では、体力と精神力を身につけることができました。

教師になるという目標があったので、講義にはほとんど休まず出席し、自分なりに勉強もしました。

教師になつて

この春から「本物の教師」になりましたわけですが、自分の力のなさを痛感しています。授業、クラブ指導、生徒指導など、なかなか思うようにいきません。しかし、少しずつでも成長していくならと、

専門の化学の講義は高校の時より奥深いものだったので、特に集中して臨みました。研究室には毎日通い、朝から晩まで卒業研究の面白さに取りつかれています。

講師としての三年間

教員採用試験に向けての勉強は少し遅いですが三回生の終わり頃に始めました。四回生の時に受けた採用試験は一次で不合格という結果に終わりましたが、運良く高校で常勤講師をすることになりました。教育実習とは違う実際の教育現場を経験することができます。また、

三つの学校に一年ずつ勤務したので、たくさんの先生や生徒と出会うことができました。この三年間はただ単に試験に合格するのにかかる時間ではなく、教師を目指す私はとつて大変意味のある三年間だったと思います。

悩みながらもがんばっています。そんな私の支えになるのは、いろいろなことに一生懸命取り組んだ大学時代と講師としての三年間です。何かを一生懸命やったという人は、ここぞというときがんばれると思います。また、様々な人の出会いは人間としての幅を広げてくれると思います。後輩のみなさんにもそんな経験をしてもらいたいと思います。

